



2025年3月

アラウコ社日本代理店  
サカキバラコーポレーション

### チリラジャータパインの現状と今後の見通し

#### 1. チリ社会

サンチアゴ市内は連日 30 度を超える日が続いていましたが、朝晩は涼しい風がアンデス山脈から吹き始めて盛夏は過ぎました。

2 月前半にチリ中部、南部で大規模な森林火災が発生しました。森林被害は一部でありましたが、製材工場に延焼はありませんでした。

これから秋に向かい雨季のシーズンになりますが、地球温暖化の影響で南米でも異常気象が続いており、しばらくは森林火災に注意が必要です。

銅価格は昨年 5 月に 5.0 ドルを超えて過去最高値になりました。6 月以降は 4.0-4.5 ドル台になり、今年 1 月からは 4.3-4.5 ドル台で高値安定しています。

今年の為替はドルに対して 1000 ペソを超えた後、950 ペソ台に戻りペソ高ドル安傾向になっています。為替市場では 900 ペソあたりまでペソが買われる予測も出ています。昨年 2024 年の GDP は年率 2.5% で予想通りの数字でした。今年も昨年並みの GDP 予想をしている専門家が多いです。

#### 2. 世界市況

アジア諸国では中近東向け販売数量が今年も昨年同様に安定しており、引き続き欧州下級材の供給がタイトな市況に変化はありません。韓国向けは政局不安と中国向け輸出梱包材の動きが落ち着いてきています。しかし中近東同様に欧州下級材の入荷は限られており、毎月コンテナで安定入荷するチリ材に依存している業者は多いです。

中国経済は景気低迷が長引いており、まだ回復の兆しはありません。

トランプ政権が関税 25% をカナダとメキシコに 1 ヶ月間延長をしましたが、3 月 4 日以降から 25% 関税が発動されると、チリからメキシコへの販売にどの程度影響が出るか見ていく必要があります。

チリ現地でもトランプ関税による北米向け製材輸出に影響が出るのが懸念されており、今後のチリ木材市況に変化が起きる可能性は十分にあります。

### 3. 日本市場

#### a) バルク配船スケジュール

2024年12月配船（5番船）は2月上旬に大阪港で寄港を終えました。

2月配船（1番船）はチリ入港が遅れており、3月前半までにはチリを出港する見込みで日本の各港へは4月中旬から入港予定です。

5月配船（2番船）は1番船が約10日間遅れている為、配船間隔を約70日キープするように5月中旬頃に現地へ入港して、日本へは6月後半から寄港する予定です。

日本向けバルク配船の後に中近東向けバルク配船を予定しています。

今回2番船の販売数量でバルク船を満船に出来ない場合、チリシッパーはバルク配船からコンテナ配船に切り替えて、5-6月の2ヶ月でコンテナ配船を組む予定です。

7月配船（3番船）は再びバルク配船を検討しますが、市況が厳しい場合はコンテナ配船を継続することになります。日本向け直行便が無い為、韓国や中国の経由地での混雑により日本入港が遅れるケースも想定されるので、バルク配船を継続したい意向です。

#### b) 梱包市況

今年は年末年始の9連休や祝日から始まり、中国春節後も輸出梱包材の市況は静かなスタートです。3月以降の梱包材市況は、トランプ関税による世界景気への影響、戦争終結期待等、梱包材市況は不透明です。しかし、チリ1番船の入港が遅れそうであり、各港の在庫水準が減る可能性が出てきました。1番船の販売数量は各社絞られており、バルク配船が2ヶ月以上の間隔で入港すると在庫水準はタイトにないそうです。

昨年後半から3000円の値上げを浸透してきた市況ですが、3月以降は更に3000円の値上げをしていくこととなります。2月後半より、トランプ関税に伴う米国の景気悪化懸念、日銀の利上げ可能性、国債の長期金利上昇、米国の利下げ観測等、ドル売り円買いの為替相場に転換してきているようです。155-156円から148-149円へ為替水準は4-5%の円高ドル安水準になっており、今後の為替水準は変動幅が大きくなりそうです。今年入港しました5番船までは各社の為替は155円前後の為替水準になります。

今後3000円の値上げが必要ですが、1番船以降に入荷する製材は現行の為替水準が続くようであればコストダウンにつながりそうです。

国産杉製材業者は2月より2000円の値上げを始めており、3-4月にかけて値上げを浸透していく市況になりそうです。2月以降、日本海側、九州、四国地方で予想以上の降雪、大雪の天候で山から杉丸太の出材が大幅に減少しています。

今後は天候の回復と共に出材は改善されてくる見込みですが、3-4月は丸太の出材がタイトな市況が続くそうです。杉製材の納期が間に合わないサイズについては、チリ材、NZ材を使う業者も出始めており、今後の製材価格値上げにはプラスになりそうです。

以 上